



生まれたばかりの蚕の葉を与える生徒 津幡高

1924年(正13)年創立の河北農蚕学校が前身である同校は、4年後に迎える創立100周年に向けて、

初回は餌やり学習の授業を実施した。初回は対象に園芸系列2年生を対象に津幡高で初、養蚕授業

園芸系列2年生対象に

### 津幡高で初、養蚕授業



# 北国新聞

2020年(令和2年) 9月12日(土)

発行所 北国新聞社

〒920-8588 金沢市南町2番1号  
〒930-8520 富山市大手町5番1号  
©北国新聞社 2020年  
http://www.hokkoku.co.jp/

「緑繭2号」をそれぞれ2千匹飼育する。生徒は今年、2回で蚕の生態や適した。この日は同部顧問を務める大丸孝孝(36)の指導で、蚕の木の上から4番目の葉を摘み取る。平成12年以降、養蚕家が軒並みなくなり、同校は地域の養蚕体験を行う団体として、津田樹里愛さん(17)は「優しく丁寧に扱わないといけない。繭になるまでしっかり育てたい」と意欲だ。授業では丈夫で長い糸が



蚕の葉で切った葉を与える生徒 津幡高

この日は授業として生徒列の2年生23人が、同校で蚕の飼育を始めた。同校は、水洗いし細かく切った、三がほどの蚕に与える。生徒たちは当番制で、後一カ月半、毎日朝、昼、晩の葉を与え、教室で育て、六がほどの蚕に育てる。松柳孝太さんは「きょう見た蚕は黒くて小さくて

初めは部活動、餌の桑育て

### 津幡高で養蚕授業

アームだ。でも映像で見ただけで、小さな蚕が黄緑色の繭をつくるもの

一回生徒たちが飼育する。現在、県内で養蚕農家は少ない。(島崎勝弘)



中日新聞北陸本社 金沢市鶴西本町2丁目2番30号 電話 076(261)3111